

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年3月4日（水）

2 確認箇所

使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）

3 確認項目

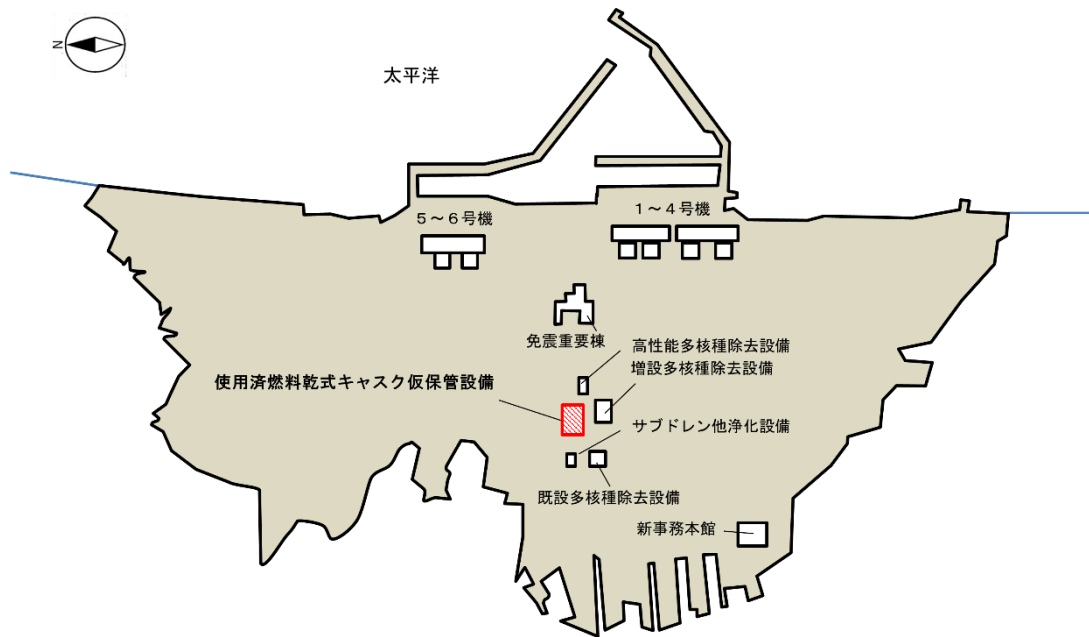
使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

4 確認結果の概要

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料について、より安全性の高い共用プールにおいて集中管理するため、各使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。一方、共用プールでは保管容量を確保するため、十分に冷却が進んだ使用済燃料を乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体収納可能）に装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「仮保管設備」という。）に移送し保管している。しかし、現在の仮保管設備では想定する保管容量に満たないため、令和5年2月に保管容量を30基増設する工事が開始された。増設される箇所の運用開始は令和8年10月頃を見込んでいる。なお、仮保管設備の保管容量は令和7年12月末時点で、上限（65基）に達している。

仮保管設備敷地東側の増設箇所では、工事が現在も継続中であることから、その進捗状況を確認した。（前回確認：令和8年1月15日）

- ・増設箇所において、乾式キャスクを固定する支持架台の設置工事が進められていた。（写真1）
- ・乾式キャスク等の移動に用いるクレーンのレールを設置するための溝が完成していた。（写真2）
- ・仮保管設備の外側はコンクリート壁が打設され、増設箇所の基礎との間は土砂で埋められていた。土砂の箇所は後々アスファルトで舗装するとのことである。（写真3）
- ・既設の保管エリアに乾式キャスクを増設する計画があり、既存の基礎を研る作業が行われていた。（写真4）
- ・現場確認時に作業は行われていなかったが、確認した範囲において、資機材の散乱等は確認されなかった。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1) 乾式キャスクにおける支持架台の設置状況



(写真 2) クレーンのレール溝の設置状況



(写真 3) 増設箇所の外壁の状況



(写真 4) 基礎の研り作業の状況
※黄枠の箇所に写真 1 の支柱が設置される。

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。